

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

人間形成コース

記載責任者

木内 陽一

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

「教員養成の質」保証とは何か。それはとりもなおさず、ペスタロッチがいう意味での人間の諸能力の発展、換言すれば、総合人間力をもった教師の育成ということになるであろう。本コースでは、教育学、心理学、社会学など教育をめぐる諸学を軸としてコースが運営されており、演習形式、ディベートなど多様な教育形態をとるがゆえに、おのずから全体的な人間の諸力が育成され、人間性が発展する。教員と院生の日常での関係も密で、温かい師弟関係が醸成されている。人間をめぐる諸学との取り組みが、教員養成の質保証へと繋がると考えられる。

2. 点検・評価

コース教員は授業を演習形式にして受講生が積極的に参加できるように努力したり、ディベートを取り入れて、思考の活性化を図っている。また、ゲスト・ティーチャーの特別講演を企画した授業もあった。人間形成コースは、理論と実践を両面にわたった教育活動を心がけているがゆえに、教員養成の質保証は十分に実現していると考えられる。各研究室でのゼミ指導、コース全体での中間発表会における全体指導など、さまざまな場面で、教員養成の質を保証する努力をし、十分な成果をあげているといえよう。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

本コースではこれまでも少ない教員定員のなかで学生支援の充実に努めてきた。ことに長期履修学生の増加に応じ、教育実習の事前指導にコースの教育経費を負担して現場の教員に依頼したり、学生の子どもの交流体験の機会を設けるために地域の学校との緊密な協力関係を築いてきている。今年度は、さらに一層教育委員会ならびに学校との教育研究協力を推進するなかで、学生の教育および研究の両面における資質の向上に努めていきたい。

また近年、本コースの入学者の多様化が進み、退職後の生涯学習者、カウンセラー、社会人・ボランティア経験者など種々の出身学部卒業者に加え、個々人の学習のニーズも多様化してきている。コースの教員の側も、こうした学習ニーズの多様化に応じた研究テーマの設定や、研究室運営や変更の弾力化など、学生がより自己にニーズに合致し、より快適な学習環境を整備していきたいと考えている。実際、KDDIなど民間企業とも共同研究を進め、種々の研究教育の場を通じて学生の研究テーマと経験を広げてきている。

2. 点検・評価

コース全体の状況を見れば、ほとんどの学生、院生は、本学での生活に十分満足していると思われる。それは、毎年2月、修士論文発表会の後で開催される院生と教員の懇談会(発表会)での発言からも看取できる。本年度もまた数多い長期履修学生のために、教育実習の事前指導に力を入れ、コースの教育経費を負担して実践経験豊かな元校長先生に依頼したり、院生の子どもの交流を深めるために、地域の学校を交流するように努力した。学校側からもボランティアの要望があり、コースとして支援した。

社会での経験を積んだ生涯学習者、外国での生活経験のある方々の入学が、コースを活性化させ、コースの院生全体にも大変貴重な刺激を与えていることも特記したい。教員の側でも、こうしたさまざまな背景を持つ院生を支援できていると思う。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

本コースの各教員は、それぞれの分野で国際的および全国的な研究・共同研究を鋭意進めており、それらの研究成果も学術論文だけでなく、国内外でのシンポジウムや講演、研究・研修会、放送大学の全国放送などを通じて公表してきている。本年度は一層のこと、こうした研究活動と成果の公表に努める。

また、一人教員だけでなく、指導学生やコース修了生とも共同研究の機会を持ち、学会発表や紀要への投稿で研究活動の拡がり活性化をはかる。

2. 点検・評価

個々の教員の研究成果についてはここではふれないが、本コースの教員は、外国の研究者や研究機関と連携し、国際的にも注目される成果をあげてきている。具体的にいえば、アメリカ、イギリス、ドイツ、中国、韓国などの研究者と連携して研究を深化させている。こうした国際性は、人間形成コースの重要な特徴のひとつである。本年度も、こうした特色を生かしつつ、研究を進めることができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

本コースの各教員は、学内の各種委員会において責務を果たすばかりでなく、徳島県はじめ各市町村の教育委員会、さらに文部科学省および関係機関の各種委員をも務めて、鳴門教育大学の有用性と存在意義を高めている。

2. 点検・評価

本年度も学内の各種委員会の責務を誠実に果たすとともに、教育委員会、中央の教育関係の諸機関の要請にこたえて、任務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

付属学校に対しては、各教員の専門性に応じた研究教育上の指導を行うとともに、積極的に教育問題解決のための共同研究を実施する。

国際交流については、教員各自の立場で本学の国際交流に寄与する。ことに、平成23年度からは本学がユネスコスクール大学支援ネットワークの四国の拠点として各種セミナー・研修会を主催するのに尽力する。また、教員研修留学生等本学に学ぶ留学生に対する講義・指導でも協力する。

2. 点検・評価

各教員が可能な形で、付属学校と連携して活動した。

中国人留学生二名が在籍し、梶井一暁准教授が指導にあたった。

梶井准教授には、さまざまな場面でお世話をいただいたが、留学生の在籍は、コース全体の良い刺激になったと思う。

ユネスコ等国際機関との連携も、各教員の持ち味を発揮する形で遂行できたと思う。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)